

教育経済建設常任委員会行政視察報告書

平塚 茂

○埼玉県鴻巣市市

学力向上の取り組み及び ICT の効果的な活用について

【所見】

鴻巣市においては、ICT化の進む新しい時代を生きていく子供たちのために、その活用が日常となった社会に子供たちが出ていったときに、社会で生き生きと活動、活躍する力や、情報社会を生き抜く力、豊かな生活を送るために ICT を身近な道具として使いこなす力は、必要なスキルであるという考えから、いち早く、令和元年 9 月に「鴻巣市学校教育情報推進課計画」を策定して ICT 教育を推進してきた。

すでに先進的に取り組んできたところに、ギガスクール構想や、コロナ禍でのリモート学習の必要性から、ICT 環境整備が国の主導で進められることになり、鴻巣市においては、一段と ICT 教育の推進が進むことになった。今回の視察において、特に素晴らしいと感じたことは、鴻巣市では ICT 教育の必要性をいち早く認識し、行政当局と教育委員会が、明確な目標、端的に言えば「ICT を文房具のように使うことができる環境を整備して教育を行う」という共通の認識をもって、積極的に事業を進めていることである。そして、そのポイントとなるのが、ICT に対し高いスキルを持った職員の存在と、外部事業者との連携、それをバックアップする市長、教育長の姿勢であったといえる。鴻巣市の関係者が一丸となって最先端のシステムを導入し、又教育の進め方についても、パイロット校を指定し、そこでの先進的取り組みを、全学校に生かしていくことにより、新たな ICT 教育を進めており、学ぶべきことであると思った。また、システムについても、移動可能な高速モバイルルーターの導入により、教員がパソコンをどこでも活用して作業ができ、効率的に仕事をするができるようになり、そのことにより生まれた時間を、子供たちへのかかわりに使うことができるようになるなど、大きな働き方改革にもなっているとのことであり、素晴らしいことである。足利市においても、行政、教育委員会が一体となり、ICT 教育を推進することが望まれる。そのためにも、優秀な ICT 人材の確保と、パートナーとなる民間事業者の選定が進めるべき課題であると思った。

○神奈川県小田原市

まちのコイン「おだちん」事業について

【所見】

小田原市のSDGs体感事業「おだちん」は、神奈川県が民間と連携して立ち上げたシステムである「つながりポイント事業」と連携、活用して、市民と市民との交流を促進することによってSDGsを推進し、市民に浸透させるための事業として導入したとのことである。

スマホにポイントをや取りするアプリを読み込み、サービスを提供する事業者であるスポットと利用者がSDGsに沿った活動を行うと、それに対してスポットからポイントが付与され、そのポイントにより、登録されたスポットからサービスが受けられるというものである。基本的にポイントは換金されることはなく、ポイントでやり取りされるということである。また、ポイントにより店舗の商品が割引されるようなことはなく、あくまでもSDGsに関連したサービスが受けられるということである。この事業は、他の自治体が導入しているようなスマートフォンを活用した地域通貨事業ではなく、換金されることのないポイントのやり取りを通じて、市民と店舗等との交流、人と人との交流を行うためのツールとして活用されるものであるとのことであった。システムは県が開発したものを導入して、その運用については民間事業者と契約し（年間400万円の経費）、その民間業者が行っている。大切な点は、SDGsの考えに賛同しその精神に沿ったサービスを提供する事業者である「スポット」と利用者のマッチングがうまくいき、交流が進むことであると感じた。開始して2年数か月、スポット116者、利用者4,210人が交流を重ねているということであり、SDGsの推進に効果を上げているようである。また、神奈川県内の5市を含む全国18か所の自治体等も同じシステムを導入しているところがあり、今後他の地域との交流を図って行くことも検討されているとのことであり、より広く活動が進められていくことが期待される。

スマホを活用した新たなポイント事業であり、これを参考にして足利市としても、新たな取り組みを進めていければと思った。

以上